

平成29年度 高齢者・障害者介護サービス事業所 大分西地域包括支援センター 事業報告書

《総括》

平成29年度は、前年度に引き続き介護報酬の改定もなく、取れる加算はすべて取れるように居宅支援事業所の営業や新たな顧客の掘り起こしに努め、稼働率のアップを図った。

年間3回行っていた事業所別営業推進会議は、職員からの意見等を取り入れ年2回としたが、事業運営の把握等も平成28年度と変わりなく行うことができ、年度当初の予測より収入金額を上げることができた。

ケアハウスにおいては、入所者数を増加することができ、収入においても目標を上回ることができた。一方、短期入所においては目標に対して減収となってしまった。新規利用者の獲得において、医療的ニーズが高くなっている事業所ではあるが、今後安定した利用者の確保ができるよう顧客ニーズをしっかりと捉え、サービスの向上や職員のスキルアップに取り組まなければならない。

また、食事提供においては、人材不足の為、自前の食事提供から完成品を業者から購入しての一部委託に変更を行い、毎月業者と連携会議を行い入所者、利用者の意見を基に改善を行った。今後も利用者が「おいしい」と言ってもらえる食事提供に向けて取り組まなければならない。

入所者、利用者の接遇に関しては、各事業所に於いてサービス向上に関する業務改善会議を行い、現場から上がってきた提案を実施し、利用者満足度アップに取り組んだ。

人材確保については、平成29年度も人員補充に苦慮したが、介護福祉士養成校などと連携を図り、実習生の受け入れを積極的に行い、雇用へと結び付ける事が出来た。

感染症に関しては、感染症予防対策マニュアルに沿って感染症予防に努めた結果、感染症の拡大につながることはなかった。

公用車による交通事故は、平成28年度が26件に対して平成29年度は25件とほぼ同じ状態であった。人身事故に繋がるような大きな事故は発生しなかったが、今後も安全運転に対する啓発を続ける必要がある。

社会貢献活動の一環としては次の3事業を継続した。

一つ目は、認知症の高齢者を在宅で介護している家族の悩みの相談に応じるとともに認知症の正しい知識を身に付け、認知症に対する理解を深め、家族の精神的、身体的な負担の軽減を図る事を目的として、大分市より委託を受けた「大分市認知症家族介護支援講座」を年4回開催した。

二つ目は、平成27年度からスタートした大分県社会福祉法人社会貢献推進協議会の「おおいたくらしサポート事業」で、特別年会費の搬出とともに、コミュニティーソーシャルワーカーの育成と派遣を行った。

三つ目は、大分家庭裁判所から依頼のあった「特別養護老人ホームにおける社会奉仕活動」として、非行少年に車いすの清掃を通じて、社会の一員としての自覚を促す事業を実施した。